

大正区将来ビジョン 2029

(骨子案)

大正区役所

3 こどもの夢をみんなで育むまち「大正」

(1) 安心して子育てできる環境づくり

大正区では児童虐待に関する相談対応件数が依然として高水準です。特に18歳未満の児童人口に対する虐待相談の割合は大阪市平均を上回っており、さらに相談対象の児童のうち0歳から6歳までの乳幼児の割合が大阪市全体より高く、就学前の子どもへの虐待相談が多い傾向です。

また、大正区では10代から23歳までの若年層で初めて親となった人の割合が他区より高く、孤立感や不安感の増大も課題となっています。

若年での出産・育児は経済的・精神的負担が大きく、支援の必要性が高いため、切れ目のない一体的な支援体制の充実が求められています。

めざすべき将来像

- ・すべてのこどもや家庭に寄り添う支援体制が充実しており、安心して子育てでき、こどもたちの安全が守られている状態

目安とする指標

- ・子育て応援フェアをはじめとした子育て層を対象としたイベント来場者アンケートで「地域の人や社会に支えられることにより、子育てがしやすくなったと感じる」と回答した割合：75%以上

◎施策の方向性

① 「大正区版ネウボラ」の推進

すべての妊産婦、子育て世帯、こどもに対して、個々のこどもや家庭のニーズに応じた切れ目のない一体的な支援を行う「大正区版ネウボラ」を推進し、児童虐待の未然防止を図り、重大な児童虐待ゼロをめざします。

② 子育ての相談ができる環境の整備

区役所、保育施設、地域の子育てサークルなどと連携を図り、身近な地域で子育てに関する相談や支援を受けられる体制を整備することで、子育てに伴う不安や負担の軽減をめざします。

(2) 未来を生きる力を育む環境づくり

大正区では小・中学校の不登校児童生徒数が増加傾向にあることから、不登校等の課題を抱えるこどもたちに対して、個々の状況に応じた支援を行う必要があります。

また、将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合が大阪市平均に比べて低いことから、将来の夢や目標を持つことができるきっかけづくりの機会を提供することが求められています。

さらに児童生徒の勉強時間が短いことから、学校以外の学習の場への参加を促進する取組が求められています。

めざすべき将来像

- ・すべてのこどもたちがいきいきと学び成長し、将来に夢や目標を持ち、チャレンジできる状態

目安とする指標

- ・「学習・登校サポート事業」に参加した児童・生徒のうち以前より学習内容が分かりやすくなったと感じる割合：80%以上
- ・全国学力・学習状況調査で「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童・生徒の割合：大阪市平均以上

◎施策の方向性

① 不登校児童生徒への支援

区内小・中学校に在籍する児童・生徒のうち、生活困窮等、ひとり親家庭などの理由により学校の授業以外で学習機会が少ない児童・生徒、不登校や病気による長期欠席等の児童・生徒について、学力の向上を図り、貧困の連鎖を断ち切る一助となるよう、必要な支援を行います。

② こどもの将来への夢と目標の育成

こどもの将来への夢や目標を育むため、学校・地域・企業等が一体となって、夢や目標を持ちチャレンジできるようこどもたちを応援します。